

業務デザイナー機能説明書

データバックアップ編

目次

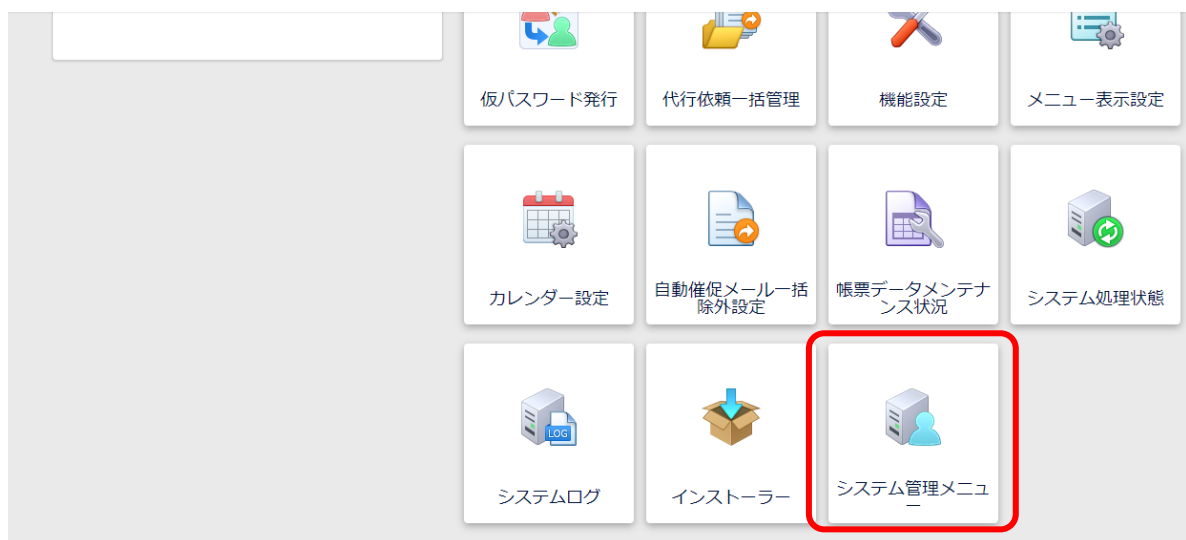
| | |
|------------------|---|
| データバックアップ..... | 3 |
| データバックアップ画面..... | 3 |

データバックアップ

業務デザイナーのデータを手動で退避するための機能です。データバックアップファイル出力処理中は業務デザイナーを利用することができません。

データバックアップ画面

1. ホーム画面の「システム管理メニュー」ボタンをクリックしてシステム管理メニュー画面に遷移する
【ホーム画面】



2. システム管理メニュー画面の「データバックアップ」ボタンをクリックしてデータバックアップ画面に遷移する 【システム管理メニュー画面】



3. 「バックアップ」ボタンをクリックする 【データバックアップ画面】

「バックアップ」ボタン（下図①）をクリックすると、確認ダイアログが表示されます。



【項目の説明】

| No. | 項目名 | 説明 |
|-----|--------|---|
| 1 | バックアップ | クリックすると、業務デザイナーのデータバックアップを行います。バックアップファイル出力先フォルダに存在するファイルは事前にすべて削除されます。 |
| 2 | 戻る | クリックすると、システム管理メニュー画面に遷移します。 |

確認ダイアログが表示され、[はい] をクリックすると、バックアップ処理が実行されて、成功すると完了メッセージが表示されます。



ポイント

データバックアップ中にアクセスした場合

データバックアップ中にアクセスした場合は、以下のメッセージが表示されます。

バックアップ中

バックアップの実施中です。完了までお待ちください。

👍 ポイント サーバー本体以外にバックアップを保存したい場合

サーバーの設定ファイルのバックアップファイルの保存方法を設定することで、サーバー本体以外にもバックアップファイルを保存できます。

※転送を実施してもサーバー本体にバックアップファイルは残ります。

各転送方法は以下となります。

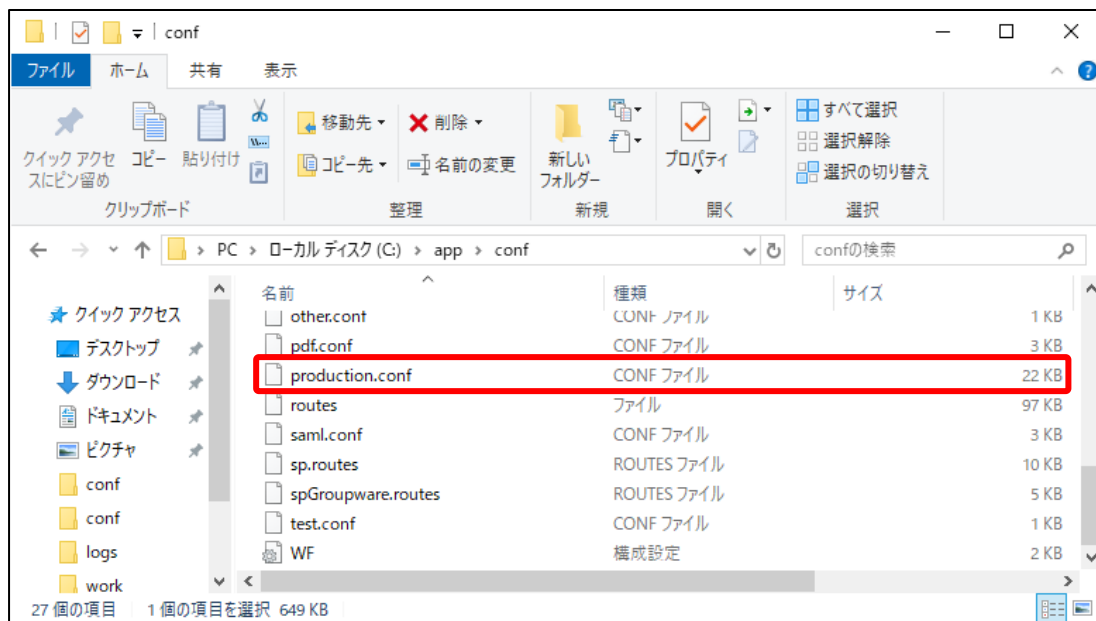
- ネットワーク経由で NAS へ転送
※サーバーが CentOS の場合は利用できません。
- FTP による転送
※事前に転送先の端末に FTP サーバーの構築が必要です。

設定方法は以下をご参照ください。

- サーバーの設定ファイルを更新

Windows サーバーの場合

- インストールドライブ¥app¥conf¥production.conf を開く。



CentOS サーバーの場合

- 以下のコマンドを実行する。

「cd /usr/bd/conf」

「vi production.conf」

```
[root@centos76 ~]# cd /usr/bd/conf
[root@centos76 conf]# vi production.conf
```

- バックアップファイルの保存先を指定する。

NAS の場合

- 「backup」の「storage_type」に「1」を入力

FTP の場合

- 「backup」の「storage_type」に「2」を入力

```
## バックアップ・リストア時のパラメータ (!!**)
backup {
  dbAccessProtocol = "http" # DBサーバのバックアップ、リストア処理を呼び出す際に
  dbAccessPort    = "9000" # DBサーバのバックアップ、リストア処理を呼び出す際に
  storage_type     = "0"    # バックアップの保存先 (0: 本体, 1: NAS, 2: FTP)
  savingDays      = "10"    # 本体のバックアップ保存期間
  nas_drive       = "Z"     # NASに割り当てるネットワークドライブ
  nas_host        = "127.0.0.1" # NASのホストIP
  nas_userid      = "nas_user" # NASのユーザーID
  nas_password    = "nas_password" # NASのユーザーPW
  nas_savingDays  = "10"    # NASのバックアップ保管期間
  ftp_host        = "127.0.0.1" # FTPのホストIP
  ftp_userid      = "ftp_user" # FTPのユーザーID
  ftp_password    = "ftp_password" # FTPのユーザーPW
  ftp_savingDays  = "10"    # FTPのバックアップ保存期間
}
```

- 接続先情報を指定する。

NAS の場合

- 「backup」の「nas_host」にNASのIPアドレスを入力
- 「backup」の「nas_userid」にNASへアクセス可能なユーザーのユーザーIDを入力
- 「backup」の「nas_password」にNASへアクセス可能なユーザーのユーザーパスワードを入力

FTP の場合

- 「backup」の「ftp_host」にFTPサーバーのIPアドレスを入力
- 「backup」の「ftp_userid」にFTPユーザーのユーザーIDを入力
- 「backup」の「ftp_password」にFTPユーザーのユーザーパスワードを入力

```
## バックアップ・リストア時のパラメータ (!!**)
backup {
  dbAccessProtocol = "http" # DBサーバのバックアップ、リストア処理を呼び出す際に
  dbAccessPort    = "9000" # DBサーバのバックアップ、リストア処理を呼び出す際に
  storage_type     = "0"    # バックアップの保存先 (0: 本体, 1: NAS, 2: FTP)
  savingDays      = "10"    # 本体のバックアップ保存期間
  nas_drive       = "Z"     # NASに割り当てるネットワークドライブ
  nas_host        = "127.0.0.1" # NASのホストIP
  nas_userid      = "nas_user" # NASのユーザーID
  nas_password    = "nas_password" # NASのユーザーPW
  nas_savingDays  = "10"    # NASのバックアップ保管期間
  ftp_host        = "127.0.0.1" # FTPのホストIP
  ftp_userid      = "ftp_user" # FTPのユーザーID
  ftp_password    = "ftp_password" # FTPのユーザーPW
  ftp_savingDays  = "10"    # FTPのバックアップ保存期間
}
```

- ・転送先のバックアップ保存期間を指定する。

※入力された数値によって、転送先のバックアップ保存期間が異なります。

本体のバックアップ保存期間には影響ございません。

例：入力値が「3」の場合、3日分のバックアップが世代管理されます。

4日目のバックアップ実施時に1日目のバックアップが削除されます。

NAS の場合

- ・「backup」の「nas_savingDays」に NAS でのバックアップの保存期間を入力

FTP の場合

- ・「backup」の「nas_savingDays」に FTP サーバーでのバックアップの保存期間を入力

```
## バックアップ・リストア時のパラメータ (!!**)
backup {
  dbAccessProtocol = "http" # DBサーバのバックアップ、リストア処理を呼び出す際に使
  dbAccessPort    = "9000" # DBサーバのバックアップ、リストア処理を呼び出す際に使
  storage_type    = "0"    # バックアップの保存先 (0: 本体, 1: NAS, 2: FTP)
  savingDays      = "10"   # 本体のバックアップ保存期間
  nas_drive       = "Z"    # NASに割り当てるネットワークドライブ
  nas_host        = "127.0.0.1" # NASのホストIP
  nas_userid      = "nas_user" # NASのユーザーID
  nas_password    = "nas_password" # NASのユーザーPW
  nas_savingDays  = "10"   # NASのバックアップ保管期間
  ftp_host        = "127.0.0.1" # FTPのホストIP
  ftp_userid      = "ftp_user" # FTPのユーザーID
  ftp_password    = "ftp_password" # FTPのユーザーPW
  ftp_savingDays  = "10"   # FTPのバックアップ保存期間
}
```

- ・データバックアップの保存先を指定する。

転送方法に応じて、データバックアップの保存先となるファイルパスを入力する。

NAS の場合

- ・「dataBackup」の「nas_dir」

※ドライブの入力は不要

FTP の場合

- ・「dataBackup」の「ftp_dir」

```
## データバックアップ（画面からのバックアップ）の保存先 (!!**)
dataBackup {
  dir = "C:\app\databackup"
  nas_dir = "nas\databackup" # NASの保存パス (ドライブは入力不要)
  ftp_dir = "/ftp/databackup" # FTPの保存パス
}
```


- 日次バックアップの保存先を指定する。

転送方法に応じて、日次バックアップの保存先となるファイルパスを入力する。

NAS の場合

- 「dailyBackup」の「nas_dir」

※ドライブの入力は不要

FTP の場合

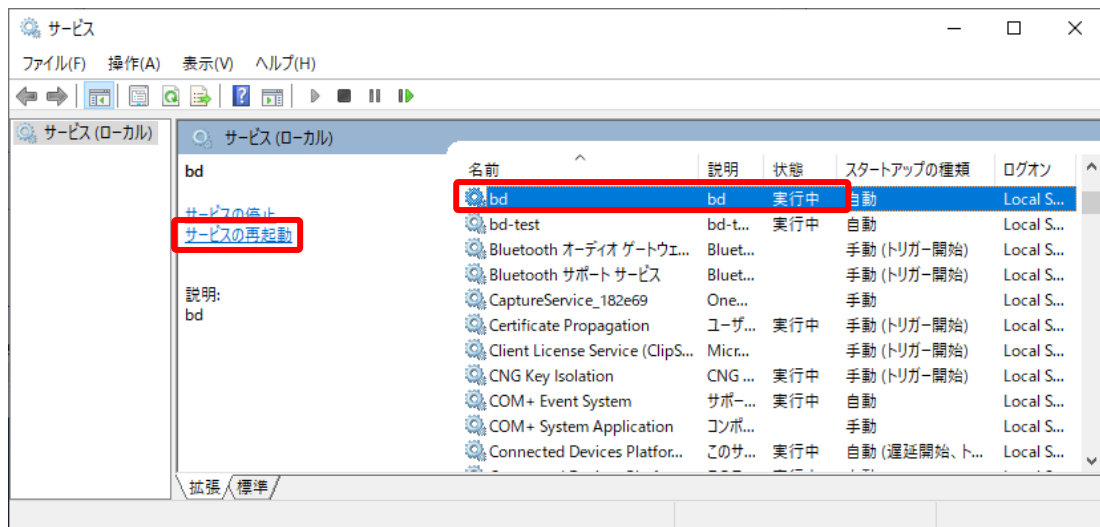
- 「dailyBackup」の「ftp_dir」

```
## 日次バックアップの保存先 (!!**) ←
dailyBackup {
  dir = "C:\\ann\\backup" ←
  nas_dir = "nas\\backup" # NASの保存パス（ドライブは入力不要）
  ftp_dir = "/ftp/backup" # FTPの保存パス ←
}
```

- サービスの再起動

Windows サーバーの場合

- サービス画面から「bd」サービスを再起動する。



CentOS サーバーの場合

- 以下のコマンドを実行する。

「systemctl restart bd」

```
[root@centos76 ~]# systemctl restart bd
```

書 名：業務デザイナー 機能説明書（データバックアップ編）

発行元：株式会社ユニオンシンク

発行日：2023 年 9 月 19 日

©2023 Unionthink Co., Ltd.